



石田梅岩道の一部（顕彰会 HP から、4ページ豆事典参照）

【目次】

|                        |   |
|------------------------|---|
| 心学明誠舎・最近の歩み            | 2 |
| 村上福壽郎                  | 2 |
| 石門心学講演会（リーガロイヤルホテル）ご案内 | 2 |
| 随想                     | 3 |
| 高野素晴                   | 3 |
| 豆事典（石田梅岩道について）         | 4 |
| 清水正博                   | 4 |
| 京都CSR推進協議会に参加して        | 4 |
| 山田節子                   | 4 |
| 編集後記                   | 4 |
| 阪口昭広                   | 4 |
| （題字 理事 和田亮介）           |   |

## 心学明誠言 最近の歩み(一部)

理事 村上福壽郎

昨年度から、事業計画の策定には、石門心学の隆盛を図るため、出来る限りに内外共にPRが出来よう、今まで以上に各事業の意味合いを考えて実施しています。

### 1. 「心学普及講座」

これは石門心学の信奉者やファンを増やすために計画したものです。林家染筆師匠にお願ひし、石田梅岩先生の「都鄙問答」を、オリジナルで落語として創作、面白く判りやすく、講釈していただいています。年5回実施が目標です。

実績例

平成二二年一月一七日 於：山本能楽堂

主催：大阪商工会議所

平成三年七月七日 於：京都商工会議所 主

催：京都CSR推進協議会

### 2. 「サマーセミナー」

昨年からは石門心学研究者の若手発掘若手の登竜門としての役割を担うべく企画しています。講師の選定は、京大大学院教授、弊舎理事辻本雅史先生にご協力いただいています。評判も上昇しており、今後とも継続して参ります。

実績例：平成三年六月二四日 中桐真理子氏「二

宮金次郎の生きざま、何が『豊かさ』なのか」  
平成三年七月二九日 淵上皓一郎氏「江戸知識人の学問と社会」

平成三年七月二日 山東功氏「心学道話の日本語」

平成三年七月二日 ファン・S・ニールス氏「江戸時代の孝子とは」

### 3. 「都鄙問答」研究会

本年からの新企画です。「都鄙問答」の原文に則し、より深く石門心学を理解したいとの、會員からのご希望に応え、仁愛大学専任講師の高野秀晴先生にお願ひし、平成三年七月三日、伝統ある綿業会館で研究会を開催しました。約二〇名の會員が参加、大変好評を得ました。今後とも継続を考えていますが、現状では、費用面で年一回の開催となりまます。先生にご無理をお願ひし、参加者に今少しご負担を願って、年四回程度実施し、何とか「都鄙問答」を読了できるように計画したいと思っています。

第四回石門心学講演会・懇親会を平成三年一月二八日(金)午後六時より、リーガロイヤルホテルで開催します。講演は、真鍋孝三氏による「企業経営と倫理」と、辻本雅史教授による「リスク社会を生きぬく知 石田梅岩と石門心学」です。ご参加下さい。

## 【随想】 新たな言葉を産み出す場

「愛六学 高野 秀晴

まだ大学院生だった時。二〇〇二年七月のサマーセミナーで「石門心学における、生涯学習」と題して講演をさせていただいて以来、熱心な受講者の方々に前にして明誠舎で話をさせていただくことは、私にとって貴重な反省と模索の機会になっている。

まず、受講者の皆さんのご関心に応えられるような話は私にはできないのではないかと戸惑いが常にある。受講者の多くは「商いの世界」における熟達者とお見受けする。だが、私はもともと経済思想的な観点から心学を研究し始めたわけではなく、そもそも私の経済に関する知識やセンスは、間違いなく素人以下である。また多くの受講者は石田梅岩に関する話を期待しておられるようにお見受けする。だが、多くの心学研究者とはおそろしく異なり、私は、石田梅岩よりも弟子の手島堵庵に心を抱いて研究を始めた。もちろん『石田梅岩全集』はすべて読んでいるが、他人様に解説できるほど読みこなせている自信はない。

また、市民の方々に届く言葉を果たして私は持ち合わせるせているのだろうかという不安もある。田頃、いわゆる学術論文ばかりを読んでいると、例えば飲み屋で自分の意見をさくばらんに表明することに驚くほど困難を感じ

ることがある。自分の意見が深遠で高尚と言いたいのではなく、その逆だ。いわゆる専門用語を使ってもっともらしく構成している（つもり）自分の意見の、その肝心の中身がもろすく陳腐に思えてきてしまつた。受講者の方々に前にして、私は専門用語を平易な表現にたどたどしく改めながら話そうとするわけだが、するとなんだか自分の話していることがとつともなく陳腐で壇上からわざわざ話すまでもないことのような気がしてくる。かくして、私は、改めて専門用語を時に交えてみることで、陳腐な中身に脚色を加え、高尚さを装いたくなるわけである。

だが、こんな戸惑いや不安を抱えつつも、私にとって市民の方々に（壇上からではあっても）向き合える機会は大きな楽しみでもある。考えてみれば、石田梅岩や手島堵庵は庶民に届く言葉を模索し続けた人物であった。京都の街中で始められた無料の公開講座。集つて庶民は千人十色。そうした聴講者を前に、彼らは「学問」を語るうとした。江戸時代の学問もやはり難しい漢字熟語が満載だ。そんな学問の言葉を、彼らは庶民に届く新たな言葉で語り直したのである。単に平易な言葉に置き換えたといつのではない。聴講者を前にして新たに作り上げられていったと見た方がよいと思う。

このように考えてみると、明誠舎の各種セミナーは「学問」や「道」をもとに語り合ったための新たな言葉が

産み出される場として可能性を有していると思つのである。梅吉や堵庵に重ね合わせるのもおこがましいが、私もそんな言葉を模索していきたいと思つ。

### 京都CSR推進協議会に参加して

山田昭子

七月七日(七夕)の日に京都CSR推進協議会主催の「CSRを考える」会が開かれました。基調講演は(株)損害保険ジャパン理事の関井雄氏による「これからの中小企業とCSR」。心学明誠舎からは下野理事による「石田梅吉の石門心学について」の講演と辻泰彦師による落語「都郵問答」で石門心学の教えを広めてきました。中小企業にもCSRを徹底してもらおう、根付かせようという趣

### 【司書典】石田梅吉道

(表紙参照)

梅吉先生が京都とご生家を往来した山道が「石田梅吉道」として地図に載っています。石田家菩提寺の春現寺から桜峠を越え与野神社に出る四・五里を言います。かつては狭く溪流も並行し、急坂もあり極めて歩きにくい道でしたが、近年は地元の方々の方力により整備されています。気候のよい時期に訪ねられてはいかが。(理事 清水正博 記)

旨です。「企業が社会の『信頼』を得る取組」をCSRととらえ、セミナーや講演を通して学ぶ事により会社の持続的な発展はもとより、地域社会全体をよくすることが可能になるのです。儲けるではなく儲かる、相手の事を考へて行動することが石田梅吉の教えの基本となっております。

【CSRとは】 Corporate Social Responsibility の略で、企業の社会的責任と訳される事が多い。

今では社会的責任に加えて社会的信頼を指すようになってくる。企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持ち、社会全体からの要求に適切な意思決定をすること。

### 編集後記

阪口昭広

長らくお待ちしました『みち』一号を漸くお届けします。これで点が線となり、道の如く未来へと続き、より皆様の探究心を沸き立たせる含報を目指します。

「みち」第号 平成三年九月発行

(社)心学明誠舎 〒556-0011 大阪市浪速区難波中3-8-17 千儿学園内 TEL/Fax 06-4981-6899  
E-mail : meisetsu@ehle.ac.jp  
URL : <http://www.ehle.ac.jp/meisetsu/>